

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	ARTS FOR EVERYONE 創造への扉			助成:文化庁			
目的・内容	誰もが芸術文化に親しむ環境を生み出していくために実施。ARTS FOR EVERYONEココロのサブリ及び楽演祭、鑑賞公演と連動して推進し、コアなファン層の拡大を図るとともに、多様なジャンルの芸術文化に触れる機会を提供する。						
開催日	①高校演劇ワークショップ 5/2、5/16～17、8/10～12 ②古典芸能ワークショップ「だから落語は面白い！」8/30 ③音楽ワークショップ「味わうクラシック～大人のためのビギナーズガイド」11/29 ④演劇ワークショップ 3時間濃縮ワークショップ「カイワとイキとウゴキ」1/23 ⑤親子向けワークショップ「のんのんばあと遊ぼう」1/24、2/14						
会場	①米子市文化ホール、とりぎん文化会館、倉吉未来中心、鳥取東高校、倉吉総合産業高校、米子松蔭高校、境高校、米子高校 ②高砂屋(鳥取市) ③カフェザパーク(米子市) ④米子市淀江文化センター ⑤境港市中央公民館、米子市児童文化センター						
入場料・参加費	無料						
参加状況	参加者数	285名	定員	156名 ※高校演劇WSを除く	参加率	73.1% ※高校演劇WSを除く	
事業費状況	予算額	収入	0円	支出	1,868,000円	収支比率	0%
	決算額	収入	0円	支出	1,094,775円	収支比率	0%
来場者アンケート(主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちをしっかり理解できるような関係でないと良い演劇はできないことがわかった。</li> <li>・普段、演劇をしている同世代の仲間と関わる機会があまりないので、いい刺激を受けました。もっともっと頑張っていこうと思いました。</li> <li>・演劇について、押す演技や引く演技など、同じセリフでもちがう行動をすることによって、相手の見方が変わってくることがわかりました。</li> <li>・相手によって、自分の演技が支えられ、空間が出来ることがよく分かった。わずかな動きが、大きな力を与えることも実感できた。</li> <li>・落語の楽しみ方を教えていただき、一段と好きになりました。</li> <li>・とても近くで体験できてよかったです。</li> <li>・落語が身近に感じられ、大変おもしろかった。</li> <li>・自分で楽器に触られたことや、わかりやすく説明してもらって、身近に感じました。</li> <li>・生演奏を室内で、これほど間近で聞いたのが初めてで良かったです。楽器に触れたのも嬉しかったです。</li> <li>・コンサートの裏側！とか、演奏・演奏会にまつわるエピソードなども聞けるとよい。</li> <li>・充実した3時間でした。3月にある「赤い薬」がとても楽しみになりました。自分のシーンに当てはまる部分もあり、とても勉強になりました。技術を教わる場はほとんどないので、よい機会になりました。</li> <li>・説明も分かりやすく、凄く楽しかったです。呼吸法などは、さっそく劇に取り入れていこうと思います。</li> <li>・舞台の日が楽しみになるイベントだったと思います。</li> </ul>						
1次評価(内部)	[成果] ・講師自身がワークショップなどにも慣れており、本番は客層を見ながら、初心者が自分で勉強してみようと思うような働きかけ、具体的な楽しみ方など、落語の面白さを満喫できる内容で、参加者の高い満足度が得られた。 ・少人数制だったので、普段触ることのない楽器(ハープ、ヴァイオリン)の体験を全員にさせていただくことができた。通常のコンサートではなかなか実施できない時間を過ごしていただき、満足度も高かった。 ・MONO「赤い薬」公演プレ事業として行ったワークショップであり、今回参加したほとんどの高校生が本公演を鑑賞し鑑賞者拡大と新規活動者開拓に繋げることができた。 [課題] ・今後いかにアーツフォーエブリワンの各事業、鑑賞事業と連携し、体系化を図っていくかが課題である。 ・リピーターの育成と新しい鑑賞者開発を狙っての音楽ワークショップであったが、クラシック音楽ということでクラシックの固定ファンの参加が多かった。 ・参加者が予定人数に達しなかった。周知が足りなかったこともあるが、話題性のあるテーマだけでは参加が期待できないと感じた。						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーツフォーエブリワンの各事業、鑑賞事業と連携を明確にし、事業を推進していく。</li> <li>・鑑賞者を増やしていくためには、新規顧客の開拓とリピーターの育成が必要であるため、今後もホール以外の会場で気軽に参加できる機会を提供し、目的達成に努めていく。</li> <li>・事業の客層を見極めて、ターゲットとする層を取り込む手立てを改めて検討していく。</li> <li>・親子対象の事業には、事業によって親は何を期待できるか、子は何が楽しめるかなどをPRするようにしていく。</li> </ul>						